



先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/03/02

ギリシャ服で再び米国睨みの相場に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>		「FOMCの利上げ時期」が焦点 予想レンジ: 116.000 ~ 122.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>		本格反騰か自律反発か 予想レンジ: 92.500~98.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承ください。

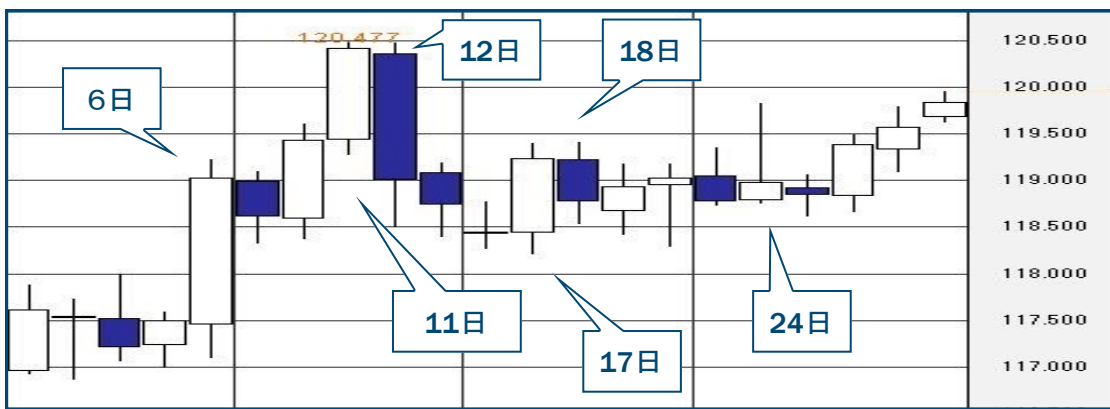
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 2月の推移

2月のドル/円相場は116.878～120.477円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.7%の上昇(ドル高・円安)となった。

ドル/円は米雇用統計の好結果や、米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーのタカ派的な発言などを手掛かりに上旬はドル高が進行。しかし、120円を超えると頭が重く、「日銀内で追加緩和が日本経済にとって逆効果になるのではとの見方が広がっている」との一部報道で円高が進行した事で上げ幅を縮小。その後は、米利上げについて、早期利上げ期待が一進一退の攻防を繰り返しながらドル/円は119.00円を中心とするもみ合いに終始した。



四本値	
OPEN	116.972
HIGH	120.477
LOW	116.878
CLOSE	119.578

6日	米1月雇用統計は、失業率は5.7%(市場予想:5.6%)と弱めだったものの、非農業部門雇用者数(NFP)は25.7万人増(同:22.8万人増)、労働参加率は62.9%(同:62.7%)、平均時給は前月比+0.5%(同:+0.3%)、不完全雇用率は11.3%(前月:11.2%)と、概ね良好な結果となった。またNFPは過去2カ月分も上方修正された。これを受けてドルは急騰。ドル/円はNY市場中盤には119.223円まで上昇した。
11日	NY市場中、フィッシャー・ダラス連銀総裁が「3月利上げを支持したが議論に負けた」などと述べた事を受けて米長期金利が上昇し、2%台を回復すると、ドル/円はストップを絡めて一段と上昇。さらに、NY市場引け間際に米CNBCが「ギリシャは救済プログラムに留まる」「ギリシャ合意の詳細は16日に判明見通し」などと報じると120.477円まで値を伸ばした。
12日	「日銀が一段の追加緩和を行う事は日本経済にとってむしろ逆効果になるのではとの見方が日銀内で浮上している」との一部報道を受けて円高が進行。しかし、観測記事だった事からその後は下げ幅を縮小。さらに、米新規失業保険申請件数が30.4万件(市場予想:28.7万件)、米1月小売売上が前月比-0.8%(同:-0.4%)と市場予想よりも弱い結果になり、米長期金利が低下すると、ドル/円も下落。118.513円まで値を下げた。
17日	本邦20年債入札が好調で日本の長期金利が低下すると、ドル/円は円売り優勢に転換。さらに、「ギリシャが6カ月の融資延長を要請するなど報じられ、ギリシャとトロイカの協議進展期待が広がった他、米紙WSJがマスター・クリーブランド連銀総裁の発言として、FOMC声明から「忍耐強い」との文言を取り除くべきだったとする発言を報じた事から米早期利上げ期待が広がり、米長期金利が上昇。これを受け、ドル/円も119.403円まで上値を伸ばした。
18日	黒田日銀総裁が記者会見で前日の報道(日銀内に追加緩和は逆効果だったという声がある)について「逆効果とは全く思っていない」「物価上昇期待を保つ効果があった」と述べた。これを受けてやや円安が進むも「今のところ物価基調に変化が生じているとは思っていない」「ただちに追加的な事を考える必要はない」とすると一服。ただ、FOMC議事録において「文言(利上げまで忍耐強いられる)の削除による金融市場への過度な影響を懸念」「多くが、海外の経済悪化は米経済見通しの下向きリスクと見ている」「数人が早期利上げは景気回復に悪影響との見解」「多くが、早期利上げのリスクを考慮すれば、長期の低金利維持が妥当とした」などあった事で米長期金利が低下すると、ドル/円も下落した。
24日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の議会証言原稿として「ガイダンスの変更はどの会合でも利上げが可能だ」という事を意味している」伝わると、119.834円まで上昇。しかし、同議長が「『忍耐強い』という文言は次の2会合の利上げの可能性が低い事を意味する」「新ガイダンスは必ずしも次の2会合での利上げを意味しない」「米経済は目に見えて回復しているが、まだ利上げの段階ではない」と利上げに対して慎重な見方を示すと失速した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.4567%
HIGH	0.6861%
LOW	0.4487%
CLOSE	0.6184%

米10年債利回

OPEN	1.6500%
HIGH	2.1625%
LOW	1.6475%
CLOSE	1.9930%

日経平均

OPEN	17536.61
HIGH	18865.39
LOW	17271.87
CLOSE	18797.94

NYダウ平均

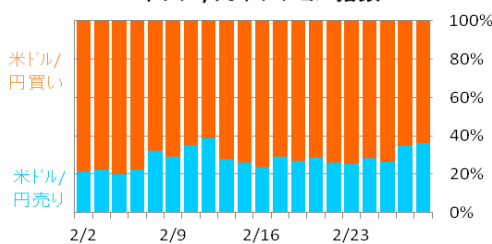
OPEN	17169.99
HIGH	18244.38
LOW	17037.76
CLOSE	18132.70

2月のポジション動向

3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

米ドル/円ポジション指数



- ・米2月雇用統計(6日)
- ・日本10-12月期GDP・二次速報(9日)
- ・米2月小売売上高(12日)
- ・日銀金融政策決定会合(16-17日)
- ・日本2月通関ベース貿易収支(18日)
- ・米FOMC(17-18日)
- ・日銀金融政策決定会合議事要旨(20日)
- ・日本2月消費者物価指数(27日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言

3月の見通し

2月のドル/円相場は米利上げ時期についての思惑が要人発言を確認しながら前後に振れる中で、概ね117円から120円のレンジ取引となった。

足元の状況を確認してみると、2月に市場の関心を集めたギリシャとトロイカ(EU・ECB・IMF)の交渉については、ギリシャへの支援プログラムが4カ月延長された事で一服し、米国の利上げ時期に市場の関心が集まっている。米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長は2月下旬に行われた議会証言で、利上げ時期はあくまで経済指標データ次第であり、利上げを急がない姿勢を表明しているが、米連邦公開市場委員会(FOMC)のタカ派色の強いメンバーは3月利上げを主張する者が出始めるなど、スタンスにバラツキが出て来ている。主要経済指標はもちろん注目されるが、今月17-18日に開催されるFOMCの声明と経済・金利見通し、イエレンFRB議長の記者会見の内容にはひときわ注目が集まるだろう。声明文の内容やイエレンFRB議長の態度からタカ派のメンバーに寄るような変化が見られれば、ドル高が進み、ドル/円は一段高となる可能性がある。一方、依然として踏み込んだ発言をしない場合は、思惑が交錯し、レンジ相場が続くと見る。

なお、日本サイドについては、追加緩和観測が後退しており、本邦発の材料に対する円の感応度が低くなっている。金融政策についての変化が期待されるような、よほど踏み込んだ内容の報道がない限り、円主導でドル/円相場に方向感を出すのは難しいと見る。

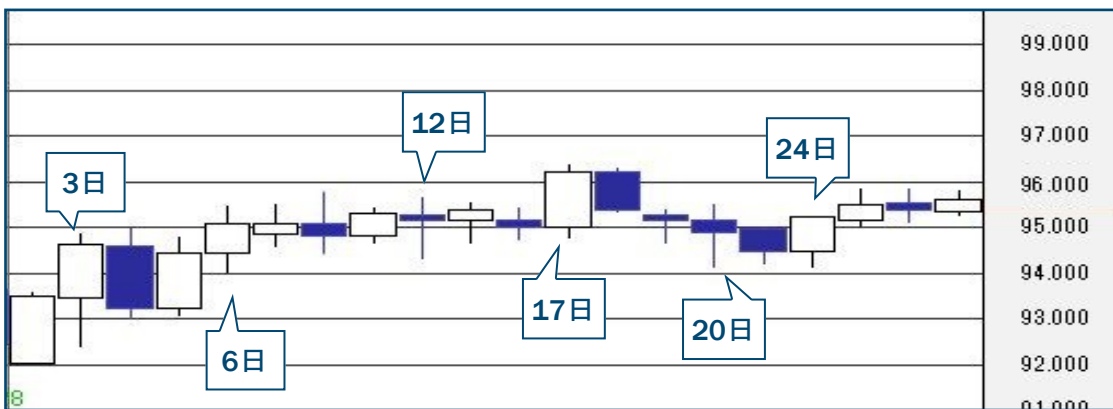
ドル/円相場は上昇した場合、2月高値120.477円、昨年12月23日高値120.823円、同年12月8日高値121.847円を順次試す見通し。下げた場合は、2月の下値を支えた116.80円台がまずはサポートラインとなりそうだが、ここを割り込んだ場合でも、1月16日安値115.837円付近では下げ止まると見る。(石川)

(予想レンジ: 116.000~122.000円)

カナダ/円 2月の推移

CAD/JPY

2月のカナダ/円相場は92.043～96.393円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.4%の上昇（カナダドル高・円安）となった。原油相場の下げ止まりと共に、上旬から反発基調を強め、17日には約4週間ぶりに96円台を回復。その後はやや伸び悩んだものの、ギリシャの債務不履行とユーロ離脱の懸念がひとまず緩和した事や、カナダ中銀（BOC）の利下げ観測が後退した事から堅調に推移し、95.60円台で2月の取引を終えた。



四本値

OPEN	92.046
HIGH	96.393
LOW	92.043
CLOSE	95.630

3日	NY原油先物（WTI）が一時54ドル台を回復するなど大きく反発した事を好感してカナダドル高が進行。エネルギー株を中心にNYダウ平均が300ドル超上昇する中、円売りも広がって一時94.80円台まで上昇した。
6日	加1月雇用統計は、失業率が6.6%、雇用者数ネット変化3.54万人増といずれも予想（6.7%、0.50万人増）よりも強い結果となった。これを受けて95.50円台まで上昇したが、同時に発表された米1月雇用統計も強い結果となり、米ドル/カナダドルが上昇したため、対円でもカナダドルの上値は伸びなかった。
12日	一部通信社が、日銀関係者の話として「日銀追加緩和は逆効果、10月緩和は消費者マインドに悪影響」と報じると、円買いが強まり、94.30円台まで急落した。しかし、同報道が観測記事であった事からすぐに下げ幅を縮小。NY市場に入り、株価や原油価格が上昇すると95円台へと値を戻した。
17日	本邦20年債入札を好調に消化した事から、長期金利が低下し日経平均が下げ幅を縮小すると円売りが優勢となった。欧州時間には、ギリシャ懸念が緩和した（同国が18日に支援プログラムの延長を申請する方針と伝わった）事がリスク志向の改善に繋がり円が続落すると96円台を回復。米国株や原油価格が上昇するとNY市場終盤には96.30円台まで上値を伸ばした。
20日	欧米市場で原油安・株安が進む中、加12月小売売上高が前月比-2.0%と予想（-0.4%）を大幅に下回った事から94.10円台まで下落した。しかし、ギリシャ支援協議が暫定合意（4カ月間の支援延長）に至った事から、米国株が急反発すると一時95.00円台を回復した。
24日	ポロズBOC総裁が、1月に0.25%幅の利下げを実施した事について「原油安の影響からカナダ経済を守るために適切な『保険』を掛けた」「北海ブレントを1バレル＝60ドルと想定して利下げに踏み切った」などと発言。3月利下げへの警戒感が後退し、カナダドル買いが強まった。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	1.273%
HIGH	1.531%
LOW	1.234%
CLOSE	1.301%

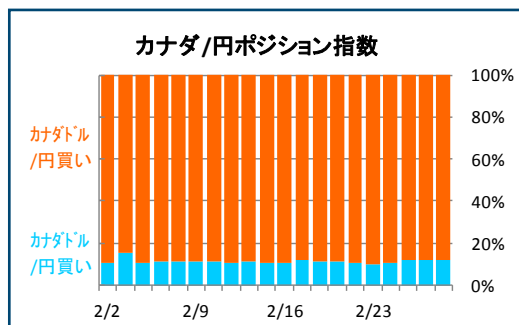
N Y 原油

OPEN	47.59
HIGH	54.24
LOW	46.67
CLOSE	49.76

NYダウ平均

OPEN	17169.99
HIGH	18244.38
LOW	17037.76
CLOSE	18132.70

2月のポジション動向



3月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・10-12月期加GDP(3日)
- ・12月加GDP(3日)
- ・加中銀政策金利発表(4日)
- ・2月加住宅着工件数(9日)
- ・2月加雇用統計(13日)
- ・日銀金融政策決定会合(16-17日)
- ・2月加消費者物価指数(20日)
- ・1月加小売売上高(20日)
- ・2月日本消費者物価指数(27日)
- ・1月加GDP(31日)
- ・原油相場など国際商品価格
- ・主要国株価

3月の見通し

2月のカナダ/円は約3.4%の上昇となったが、前月に10%を超える大幅な下落を示現していた事を考えると「自律反発」に過ぎないとの見方を捨てきれず、本格的な反発局面入りについてはまだ確信が持てない。カナダドル相場との相関性が高いNY原油先物も、下げ止まったとはいえ50ドル台では上値が重く、下落再開への警戒感を拭い切れない。カナダドル/円相場の底打ちを確認するには、少なくとも97.369円(昨年12月高値106.496円から今年1月安値91.728円までの下落幅の38.2%戻し)を突破する必要があると見ており、月初に予定されている加国内総生産(GDP、3日)やカナダ中銀(BOC)政策金利発表(4日)が重要なカギを握る事になると考えられる。特に、BOCの金融政策発表については追加利下げに関する市場の見方が割れているだけに、カナダ/円相場に大きく影響する可能性が高いイベントだ。その他、2月は概ね堅調に推移した主要国の株式市場が、3月上昇基調を維持できるか注目される。(神田)

(予想レンジ: 92.500~98.000円)